

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第13回幹事会議事要旨

- 1 日時：令和2年8月21日(金)13時00分～14時00分
- 2 場所：オンライン (Web 会議システム Zoom)
- 3 出席者：林 (会長)、甘利 (副会長)、岡島、遠藤、石濱
陪席者：西田 (防災科学技術研究所)、松本 (〃)、倉谷 (〃)、丹羽 (〃)、平岡 (セコム)、
斉藤 (筑波大学)、大塚 (〃)、秋葉 (〃)、鈴木 (〃)、根本 (〃)

(敬称略)

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

(1) コンソーシアムと協力機関による合同ミーティングについて

遠藤委員から、資料 1-1～1-4 に基づき、卓越大学院プログラム申請に際して新たに協力を得た地方自治体・企業・研究機関・海外大学（以下、協力機関）との合同ミーティングを開催する提案があり、承認された。開催日時について、グルノーブル・アルプス大学（フランス）が協力機関に含まれていることから、検討の結果、10月～11月の火～木曜日 16時～18時（仏時間 9時～11時）の中で候補日を挙げて調整することとなった。

(2) 公開シンポジウムの開催について

遠藤委員から、資料 1-1 及び 1-5 に基づき、公開シンポジウム開催の提案があり、開催形態について「オンサイトで行いつつ、オンライン参加も可能」とすること、また、テーマを「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に学ぶこれからの R2（※リスクレジリエンスのロゴマーク）の在り方」とすることで承認された。英語タイトルについては今後検討することとなった。

(3) 令和2年度年間活動計画（案）の見直しについて

遠藤委員から、資料 2-1～2-2 に基づき、令和2年度年間活動計画（案）の一部を見直す旨の説明があり、検討の結果、下記のとおり修正することで承認された。

- 9月の第10回運営委員会 or 総会は、総会として9月15日（火）11:00～12:00に開催する。
- 10～11月のコンソーシアムと協力機関による合同ミーティングは、火～木曜日 16:00～18:00に開催する。
- 12月の第14回幹事会は、12月15日（火）11:00～12:00にオンライン or 防災科学技術研究所（つくば or 東京会議室）で開催する。
- 令和3年1月～3月の公開シンポジウムは、オンサイト・オンラインを併用して実施することとし、第10回運営委員会・第15回幹事会を同日に開催するか、別日に日本電気またはスリーエムジャパンで開催するかについては、今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて検討する。

(4) セミナーイベント「Security Days 2020（10月開催）」への後援について

遠藤委員から、資料 3-1～3-3 に基づき、昨年度に続き情報セキュリティ関連イベント「Security Days」への後援依頼があった旨の説明があり、引き続き後援することで承認された。

(5) インターンシッププログラムに関する申合せの改正について

遠藤委員から、資料 4-1～4-3 に基づき、大学院の改組（リスク工学専攻→リスク・レジリエンス工学学位プログラム）によって申合せを一部改正する必要がある旨の説明があり、原案のとおり承認された。

(6) その他

・遠藤委員から、追加資料 1 に基づき、コンソーシアム規約（第 8 条・第 9 条）を一部改正する必要がある旨説明があり、原案のとおり承認された。これに伴い、追加資料 2 に基づき、会長指名の総会・運営委員会委員として遠藤靖典氏（筑波大学システム情報工学研究群長・システム情報系教授）・石濱悟氏（コンソーシアム事務局長・筑波大学社会人大学院等支援室長）が加わることが承認された。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) 卓越大学院プログラムの審査結果について

遠藤委員から、卓越大学院プログラムが不採択となったこと、秋以降に審査結果が届いた際には速やかに情報共有する旨の報告とともに、引き続き協働大学院方式並びにコンソーシアムの運営にご協力を賜りたい旨のお願いがあった。

(2) 秋学期における授業の実施について

遠藤委員・岡島委員から、資料 5-1～5-2 に基づき、学位プログラムの秋学期の授業について、現在、各授業担当教員・世話人教員で各授業の実施方法（オンサイト or オンライン）を調整しており、協働大学院教員・非常勤講師が担当する授業についても、世話人教員を通して連絡を取り、実施方法を調整中である旨の報告があった。

(3) その他

・リスク工学研究会（RERM）への講演協力依頼について

岡島委員から、学生にコンソーシアム参画機関について知ってもらう良い機会であるため、今後も RERM において、協働大学院教員及びコンソーシアム参画機関所属者に講演を頂きたい旨の依頼があった。

・遠藤委員から、来年度以降に、JST と JICA が共同で実施する SATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム）に応募することを検討している旨、情報共有があった。これを受けて、林会長から、SATREPS ではパートナー国の現地 JICA の協力が必要不可欠であること、また、現在、防災分野でタイをパートナー国として実施している研究課題の概要について情報提供があった。意見交換の結果、まずは協力機関のあるマレーシアをパートナー国として、検討を進めることとなった。

以 上